

「国際社会における中国のプレゼンス」

五十川 倫義

はじめに

中国脅威論が世界に広がっている。それは、拡大一途の中国のプレゼンスの大きさを物語っている。

その脅威論は外交上の影響力、軍事、経済、エネルギー、環境汚染、食糧など様々な分野にまたがり、地域によって強弱も違う。軍事的脅威論は主に米国、日本、台湾や周辺国で広がっている。

米国防総省は2006年2月発表した「4年ごとの国防政策見直し」(QDR)で、優先すべき4項目の1つとして、「戦略的岐路にある国家群への選択肢の提供」を盛り込んだ。中国やロシア、インドなどを国際社会の協調的勢力として導く必要性を示したが、特に中国については、「米国と軍事的に競争する潜在能力が最も高い」と強い警戒感を見せた。

中国は中央アジアや東南アジアなどへの影響力を高め、地域大国としても勢いを増している。「中国はアジアから米国を閉めだそうとしているのではないか」。米国はそんな疑念も抱いている。中国を見る米国の目は厳しくなってきた。

だが、米国はイラン、北朝鮮の核開発問題など多くの課題を抱えており、ゼーリック米国務副長官は「責任あるステークホルダー（利害共有者）」として位置づけた。

中国はこれを歓迎し、さらにパートナーとしての位置づけを求めている。中国はずっと米国と協調していくだろうか。それとも、政治体制の違いや中国の勢いが米中関係をこじらせ、緊張をもたらすのだろうか。

中国の経済発展、国際的プレゼンスの行方に、国際社会は目を離せない。

現時点で、中国のプレゼンスはどんな分野に、どの程度、高まっているのか。外交、軍事、経済など様々な分野における状況を詳しく見てみたい。その中には中国の特徴的な行動と思考、将来を示唆する動きも少なくない。これらのデータから中国のプレゼンスの将来についても、その一端が見えてくるだろう。